

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470502026		
法人名	社会福祉法人 呉同済義会		
事業所名	グループホーム 温養院		
所在地 (電話番号)	呉市焼山中央6丁目6-13		(電話)0823-33-3858
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年6月11日	評価確定日	平成21年6月19日

## 【情報提供票より】平成21年5月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.75 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> 改造
建物構造	鉄筋平屋造り 1階 階建ての 1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.8 歳	最低 83 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木医院・灘田歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

呉市郊外の静かで広い敷地の中に社会福祉法人・呉同済義会の諸施設があり、長年培われてきた福祉の精神のもと、グループホーム温養院も諸事業の一つとして設立された。地域とのふれあいを大切にし、地元自治会や学校などと協力しあう関係を広げ、利用者は地域の人々や子どもたちとも多く触れ合い交流を持てる環境の中で暮らしている。利用者も職員もみんなが喜びあえるように職員の教育や環境、ゆとりを持たせた配置など工夫を重ねている。利用者は明るく笑顔で会話をする人が多く、のびのびと暮らしているのがうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった、同業者との交流を通じた向上と食事を楽しむことのできる支援はできる範囲で努力がされてきた。食事を楽しむ支援は おやつを利用者と職員と一緒に楽しむように進展できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義はよく理解されており、評価を職員とも共有している。今回の評価は直近の運営推進会議でも紹介し、改善に取り組んでいく予定である。自己評価は玄関に誰でも閲覧できるように置かれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年4回、運営推進会議を開き、地域包括センター・家族代表・利用者の後見人・地元自治会顧問などから参加いただいて、事業所の現状報告・評価の報告を行い、意見や助言をいただいてサービス向上に役立てている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に御意見箱を設置し、重要事項説明書で第三者機関の連絡先等を明記して、意見・苦情の受け入れ体制を整えている。また、面会時はもちろん、年に1度家族会を開き、広く意見をいただく機会を設けている。意見や苦情をいただいた時は 職員で共有し、対処し、今後の運営に活用している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会の一員として活動し、事業所の盆踊りを地元自治会との共同開催に発展させるといった積極的な交流を行っている。地域の学校の体験教育の受け入れも行っており、運動会の招待を受けるなど交流を深めている。これらの取り組みによって、利用者は地域の人たちや子どもたちと触れ合う機会を多く持っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者中心に作り上げた理念を掲げて、地域に開かれ、かつ利用者本位の運営を目指して、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は 誰にも目に留まる玄関に掲げるとともに、重要事項説明書に記載して、管理者・職員・家族等と共有している。ミーティング等においても、理念を念頭にコミュニケーションを取っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会の一員として活動し、事業所の盆踊りを地元自治会との共同開催に発展させるといった積極的な交流を行っている。地域の学校の体験教育の受け入れもっており、運動会の招待を受けるなど交流を深めている。これらの取り組みによって、利用者は地域の人たちや子どもたちと触れ合う機会を多く持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解しており、職員の意見をくみ取って自己評価を作成している。結果はケア会議や運営推進会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年4回実施している。最近の会議では職員からの提案によりベルマーク収集整理に利用者が協力することを紹介し、利用者の励みと子どもたちとの交流にもなると好評であった。このような報告や助言を得て、サービス向上に役立てている。		運営推進会議は年6回実施される事が望まれる。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員が定期的来訪していただき、意見交換をしている。また、管理者は市の関連団体の役職を多数務めており、役職を通じて交流を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の生活状況や写真・利用料金などを取りまとめて家族に送付している。広報誌「ひだまり」を2カ月に1度作成して、行事などの事業所の様子を報告している。家族の来訪時には近況を報告し、意見も頂いている。健康に関するような急な報告は電話で行うこともある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し、重要事項説明書で第三者機関の連絡先等を明記して、意見・苦情の受け入れ体制を整えている。また、面会時はもちろん、年に1度家族会を開き、広く意見をいただく機会を設けている。意見や苦情をいただいた時は職員で共有し、対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人数に余裕を持たせており、退職や異動があっても馴染みの職員が介護に当たれるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員に順次、認知症介護実践者研修・リーダー研修に参加させ育成指導に努めている。また、講師を招いて法人内で人権研修などを開催し、身近な所で職員に受講機会を設けている。	○	管理者は着任後日が浅く、計画だった職員の育成はこれから行おうとしている。育成計画とその推進に期待したい。若い職員の今後の自発的なスキルアップにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修・リーダー研修に職員が順次参加している。これは、職員レベルでの同業他者との数日間の密接な意見交換の場となっている。管理者は市の関連団体の役職などを通じて交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に、家庭訪問や事前面接を行って、利用者や家族とのコミュニケーションと状況把握に努め、その後1週間程度の体験入居で様子を見ながら、準備を行っている。居室には寝具や身の回りの物を必要に応じて持ち込んでいただいて馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望に応じて 買い物・食事の盛りつけ・散歩・掃除・洗濯物干し・たたみ・家庭菜園・手作りおやつなどを職員と一緒にしている。職員が利用者に教えてもらうこともあり、支えあいながら生活を営んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をする機会を持って、利用者の思いや希望の把握に努めている。利用者が昔話や自慢話を始めると利用者が元気になるといった様子を見ることで利用者ごとのケアの在り方を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント情報の収集、利用者・家族の希望、入居後の所定期間の様子などから介護計画を作成し、関係者と話し合い、家族の了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年～1年ので見直しを行う。モニタリングを行い、関係者と話し合って介護計画を作成し直している。状態に変化があれば随時実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応えるほか、身体機能を維持するための機会を作っている。レクレーション活動、ラジオ体操、理学療法士によるリハビリ訓練の機会を設け、さらに個人に合った方法になるように努力中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、内科・歯科の協力医の診療を受けている。希望があれば、かかりつけ医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に家族と話し合って書類で方針を共有している。また、入居後は必要に応じて医師や家族と連携して対応策を早めに決めるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉使いには注意を払っている。利用者同士の会話にも問題が生じれば話題を変えるなどして尊厳を傷つけないように配慮している。プライバシーにかかわる情報は施錠できる保管庫に収め、プライバシーに関わる会話も場所をわきまえるように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースでゆったりと過ごせるように心がけている。利用者の意向をくみ取って、無理をせず声かけもしてその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材は隣接法人施設と合同で準備しており、食事委員会に利用者が参加して献立に反映させている。職員は各自の弁当を持参しているため、昼食時は一緒に食事をしていないが、十時・十五時のお茶の時間は一緒に過ごし、楽しむ時間を作っている。	○	食事を利用者と職員と一緒にいただくことの意味や効果をぜひ検討いただいて、部分的にも取り組んでみることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上を目安に、声かけや会話をきっかけに、利用者の希望で入浴していただいている。午後が通常の入浴時間帯であるが希望があれば いつでも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片づけ、おやつ作り、巻きずし作り、家庭菜園の種まき・水やり、洗濯物干し・たたみなど、利用者のできること・得意なことは職員とともに楽しみながら行っていただけのように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園や近くのコンビニまでの散歩を日常的に支援している。箸・茶碗・洋服などの日用品の買い物はクルマで出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠する事の弊害をよく理解しており、夜間以外は施錠することなく常に見守りを重視した支援を行っている。また、食堂には掃き出し窓を設置し、玄関以外からも自由に入出りできる。敷地内であれば外に出ることに問題はなく、法人隣接施設の職員からの見守り協力もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練が年2回行われている。直近訓練は5月27日に夜間を想定した避難訓練を行った。食堂の掃き出し窓は避難にも大きな効果があった。次の訓練ではAEDの使い方訓練も予定しており、工夫を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーは 栄養士によって管理されている。苦手な食べ物は代替食を準備し、食事量や水分摂取量も記録し、利用者1人ひとりが適切な栄養と水分が摂れるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、玄関、通路などの共用空間には 職員が利用者とともに作ったぬり絵などの作品や生花が飾られ、また、掃き出し窓からは戸外へすぐに出られる解放感があり、居心地良く安心して暮らせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて利用者の家具や写真などを持ち込んで、利用者が安全に安心して過ごせる環境になっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念の基づく運営</b>				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中で利用者本位の暮らしが安心して生活できるよう地域との交流も大切に考え、事業所独自の理念がある。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常のミーティング、ケア会議等で理念の共有化をはかり、ケアの向上に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームに来所された際、目に届きやすい玄関の入口に理念の掲示をしている。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夜間以外、日中は玄関に施錠せず近所の方が気軽に立ち寄っていただけるようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会と合同の盆踊りや保育園・小・中学校の訪問行事に参加し交流を深めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	機関誌を地域に配布し、介護等困った事があればいつでも相談を受け入れられる様にしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価、項目を参考にしケア会議等で意見を共有している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進委員会議を行い、地域包括支援センター、家族代表、自治会顧問の方を交えてホームの現況を報告している。会議での意見、助言をホームのサービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護相談員の定期的来訪があり、意見交換をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に積極的に参加し、理解・活用に取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	管理者により職員会議等で防止徹底指導等を受けており虐待防止に努めている。		研修等により、学ぶ機会をつくる。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用説明書にわかりやすく記入し、入居者、家族にサインをいただいている。		利用者、家族にわかりやすく説明、話し合いをしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ホーム内に意見箱を設置し、気軽に意見・相談が出来るように配慮している。		普段の会話の中で常に意見・不満等を傾聴している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者のホームの近況は毎月の手紙や機関誌を送付している。健康に変化がある時はその都度電話連絡を行う。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に意見箱を設置し、面会時・家族会等で直接、聞き取りをしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議・ミーティングの実施。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	平均的な体制がとれるよう調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職者の補充以外は最小限に抑えている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は認知症介護実践研修等資格取得や育成指導に努めている。内外の研修の参加促進を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会で同業者と意見交換等で交流する機会はあるが、本格的な活動はできていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員の意見・悩み等、常時聞き入れるよう取り組んでいる。	○	職員親睦会の行事参加(旅行・交流行事等)し、ストレス軽減に努める。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	適切な管理・状況把握に努める。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前面接を実施し、ホームに早くなじんでいた様、見学・体験入居(3日間)の実施を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームに見学訪問をしていただき、意見要望を伺い色々なケースに対応できるよう努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者、家族が必要とするサービス内容を適切に見極め、出来るだけ意向に沿えるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居を実施している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に買物、食事の盛り付け、散歩、掃除など出来る事を手伝っていただき共に家庭的な雰囲気の中で毎日の生活を過ごしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に近況連絡を行っている。 必要に応じて家族連絡も行っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	利用者の希望や意向を把握すると共に家族の方からの情報を参考にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人などの面会の促進、地域交流サロン等の活用		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の行動の見守りを行い、トラブルがないよう配慮している。又利用者が共に活動する機会を多くする		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	定期的に連絡、機関誌の送付を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に話す機会を持ち、出来るだけ意向に沿えるように努める。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所以前の生活経緯、その他の生活状況など個人ファイルに記録し、閉じている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員会議、ミーティング等で話し合い、個別ケースとして記録している。その都度気付いた事も申し送りノートに記録している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の意向に沿った自立支援に向けたケアプランを作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの必要がある場合、適宜に実行する。又期間終了時にアセスメント実施し、見直ししている。家族の同意も得ている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子、食事、水分量、入浴、身体状況等、個人ファイルに記入している。ケアプランの見直しにも活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設デイサービスのレク活動に参加。理学療法士によるリハビリ訓練に参加。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	傾聴ボランティアの来訪。 地域交流サロンに参加。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	併設デイサービスの(レクリエーション)(入浴サービス)を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	できていない	○	今後、意向や必要性に応じて対応していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設の特別養護老人ホームの協力医療機関の診療を受けている。本人、家族より入所前の医療機関を希望される方もおられ、希望に沿っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて専門医の受診を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の特別養護老人ホームの看護師との連絡、報告の連携をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院の付添、医、師、家族と連絡を取っており、情報交換に努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	必要に応じてカンファレンスを行い、医務や家族の方との連携をとり、話し合っ、了解の上で対応策を早期に決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化に応じ、家族の意向にも配慮し、医務とも連携を取りながらよりよいケアを行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	身体的理由により併設の特養に入所移動する場合は、利用者及び家族には十分に説明、理解をいただき、特養の職員との情報交換を行い住み替えによるダメージの軽減を図る。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人ファイルは施錠できる保管庫に納めている。プライバシーに関する会話は他の方に聞こえないよう配慮している。写真掲載も了解を得て行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常の会話から利用者の意向、希望を見出し、出来るだけ自己決定出来るよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の日常生活を職員の都合や業務の流れで行うのではなく、利用者のペースを大切に、ゆったり過ごせるよう心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月2回ある施設への理美容業者を利用される方、地域の美容院を利用される方等本人の希望に合わせている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は共にできていないが、盛り付け、片付け等は職員と共に行っている。	○	食事の代わりに10時、15時のお茶の時間は出来るだけ一緒にお茶をいただき、会話を楽しんでいる
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望により一緒に買い物を行い、職員が摂取量を把握する中で楽しんでいた。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、一人一人に合ったケアを実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人のペースに合わせていつでも入浴できるよう準備、声掛けを行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中はなるべく活動的に過ごしていただくようにし、その人にあったペースで休息、快眠できるよう心掛けている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	利用者の出来ること、得意な事を楽しんでいただきながら、食事の準備(盛り付け、お皿選び)洗濯物たたみ、園芸、おやつ作り、手工芸など職員と一緒にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自力で行える方には見守り、助言をしながら支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	随時、希望があれば外出している。天気の良い日は近くの公園等に散歩をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	普段の会話の中で希望の場所を参考にして年間行事として花見・遠足(春・秋)等を企画している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の理解を得て、いつでも電話が出来るよう公衆電話を設置している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関には日中施錠せず、気軽に面会、訪問が出来るよう家庭的な雰囲気になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会等の参加により認識、理解し拘束に対する禁止意識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。無断外出においては他部署との連携を取り、協力を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は見守り、本人の居場所の確認。夜間は定期的な巡回を行い、訪室の際には必ずノックをし、声をかけて入室し、不快感が起きないように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物品は事務所で保管し、必要時には見守りに使用していただくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者本位の生活の中で安全保持に努めている。防災避難訓練を実施している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的ではないが緊急の場合対応出来るよう資格を持っている職員に指導してもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練が年2回行われている。	○	防災訓練の他に地域の方の協力が得られるようお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	必要に応じ家族には詳細に連絡している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	小さな変化やサインを見逃さないよう申し送りノート、個人ファイルに記入している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに服薬チェックの項目があり、記入している。薬は手渡しをして服薬確認をしている。服薬後の症状・変化に気を付けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ヨーグルト・ジュース等、個別に対応している。毎日のラジオ体操（軽体操）等の運動にも心掛けている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の方、夕方1回の方、うがいの方、本人に合った口腔ケアを行っている。強い拒否がある方は、医務と相談しながら支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分量を記録し個人記録にも記入している。苦手な食材は代替食を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は特養調理室より提供してもらう。食器洗浄機を使用、台所は夜間消毒を行う。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花を置き、冬を除いて暖かい日中は玄関を開放し気軽に出入りができる雰囲気になっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同空間であるホールの壁などに利用者と一緒に季節感のある作品を飾り又適度な室温と静かな環境で過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファ、好きな席でゆっくり過ごしていただく。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使っていた馴染みの家具を持ち込み、又家族の写真をボードに飾り、居心地の良い空間を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除時の換気、温度調節には配慮する。利用者の衣類着脱により体温調節をする。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	下肢筋力の維持の為リハビリ訓練の参加を促し下肢筋力強化に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の出来る事を活かし、より自立が出来るよう失敗の要因を取り除く工夫をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑・花壇での園芸作業を行い、出来るだけ収穫に繋がる物を作り、収穫時には楽しんで活動できるよう支援している。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② <u>利用者の2/3くらいの</u> ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② <u>数日に1回程度ある</u> ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらいが</u> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらい ③ 家族等の1/3くらい ⑤ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目です